

第3回柏崎市学区等審議会 概要報告

1 日 時 令和4年（2022年）5月12日（木）午後6時30分～午後8時5分

2 会 場 柏崎市役所4階 4-3・4-4会議室

3 出席者

- (1) 委員 19名 阿部会長、徳永副会長、池嶋委員、大谷委員、片山委員、北村委員、小林（眞）委員、小林（美）委員、関矢委員、遠山委員、富川委員、中村（豊）委員、中村（義）委員、拝野委員、宮坂委員、矢代委員、山田委員、吉田委員、飛田委員
- (2) 事務局 4名 宮崎教育部長、田辺教育総務課長、池田学校教育課長、伊比教育総務課課長代理
- (3) 傍聴者 2名
- (4) 報道 2名

4 都合により欠席した委員 1名 五十嵐委員

5 会議概要

- (1) 開会 阿部会長
- (2) 今後の審議の進め方について
- (3) 報告事項
 - ① 新潟県内小・中学校の統廃合の状況について
 - ② 新潟県内他市町村と比較した柏崎市の人口、面積及び学校数の状況について
- (4) 審議事項
 - ① 柏崎市立小・中学校学区再編方針について
- (5) その他
 - ① 次回審議会の日程について
 - ② その他
- (6) 閉会 徳永副会長

質疑・応答

発言者	発言概要
-----	------

【開会あいさつ】

会 長 : 前回の審議会では再編方針について全体質疑を行った。予想以上に活発な質疑が行われ、学区再編の課題や問題点がいくつか提示された。今回は、今後の審議の進め方について話し合った後、前回要望があった県内他市町村と柏崎市との人口、面積、学校数等の比較について事務局の説明を受け、再度、学区再編方針に対する全体質疑を行いたい。

【今後の審議の進め方について】

- 会 長 : (添付資料1に基づき説明)
(補足説明)今年度分の審議を中心としたもので、まず、全体に対する意見交換を行ったうえで個別案件の協議に入りたい。あくまでも目安であり、途中の修正、地元の意見聴取2回も必要であれば見直すなど、柔軟に対応し、丁寧に審議を進めたいと考えている。
また、審議会その他、市議会や対象校関係者等、なるべく様々な意見を聴きたい。ため、学校訪問を行いたい。開催は平日昼間が想定され、仕事がある人は参加が難しいかもしれないが容赦願いたい。日程が決まり次第連絡させてもらう。
- 会 長 : 進め方について意見はあるか。
全 委 員 : 意義なし。

【報告事項】

- 事 務 局 : (新潟県内小・中学校の統廃合の状況について、添付資料2に基づき説明)
(補足説明)平成30年度統合の糸魚川市立青海小学校と糸魚川市市振小学校は、学校間の距離は15kmであり、統合後はワゴン車で23分かけて通学している。また、同年度統合の長岡市立栃尾南小学校と長岡市立中野俣小学校は、学校間の距離は11kmである。栃尾南小学校と中野俣小学校の間にある西谷小学校も栃尾南小学校と統合し、通学人数が多いため、スクールバスを利用し、11kmを17分かけて通学している。
- 会 長 : この件について質問はあるか。
全 委 員 : 質問なし。
- 事 務 局 : (新潟県内他市町村と比較した柏崎市の人口、面積及び学校数の状況について、添付資料3に基づき説明)
- 会 長 : この件について質問はあるか。
委 員 : 今回の資料は現在の柏崎市内の学校の状況を反映させた資料だと思うが、方針の統合が全て実現した状況が確認できる資料を作成してほしい。
- 事 務 局 : 次回用意する。
委 員 : 小学生、中学生の人数が他市と比較できる資料を用意してほしい。
事 務 局 : 現段階で県内全ての市町村の小・中学生の人数を比較した資料はない。
委 員 : 児童生徒数は、県教育委員会に確認してほしい。
事 務 局 : 児童生徒数と学校数の比較の資料を用意する。

【審議事項 柏崎市立小・中学校学区再編方針について】

- 委 員 : 子どもが少なくなっている状況で、統合を進めるとますます子どもを産み、育てにくい環境となることが想像できる。子育て世代に大変な思いをさせるより先に、企業誘致をして保護者が働く場を確保したり、観光を充実させたりして、市全体で子どもたちを産み、育てやすい環境を作る方が良いと考える。
統合案の策定について、財政難からではないと聞いたが、急に統合を進めるに至った背景を聞きたい。
- 事 務 局 : 財政難から方針を策定したものではない。話の発端は、市長と教育委員との総合教育会議の中で子どもたちの数が減っているという話が挙がったことからである。教育委員会として、小規模の学校のメリットも承知しているが、ある程度の規模の学校のメリットもあり、そちらを優先したいと考えている。性急に思われるかもしれないが、一日も早くある程度の規模の環境の中で子どもたちに育ってもらいたいという思いがある。
また、仕事の確保やまちづくりといった意見も重要だが、学区等審議会は、学校について審議していただく場であることをご理解いただきたい。学校を考える上でまちづくり等も切り離せない課題だが、そこに集中すると本

来の審議が薄まってしまう。まずは学校を起点として考え、その中で、どういったまちづくりをするから統合が良いのではないかと、そのままが良いのではないかという意見をいただきたい。

委員：現在の小規模校をどう評価しているのかを聞きたい。

特に高柳小学校は、アニメスタジオと連携し、独自の町おこしや地域の良さの発見を行っている。児童数は少ないが、これだけのことができるということを世界に知らしめている。そういった学校も一括りにして、近いところとの統合を考えているように思ってしまう。

高柳小学校が統合するのであれば、西山地区の内郷小学校と二田小学校も統合だと思っていたが、今回の方針には挙がっていないため、住民からすると順番が違うのではないかと感じてしまう。市、教育委員会の認識と住民の認識に違いが生じている部分もあるため、様々な意見を聞きたい。具体的には、市議会、統合される側や統合を受け入れる側、先生方の意見も聞きたい。学校の先生から、心の中で思っていることは多くあるが、口に出しては言えないという意見も聴いているため、ぜひ意見聴取の場を準備してほしい。

会長：補足だが、統合する側、統合される側の学校関係者への意見聴取は、事務局に依頼した。地元への意見聴取も統合対象の両校で行う予定である。

委員：統合する、統合されるという話が出たが、対等や吸収といった統合の仕方は決まっているのか。

事務局：方針の中で、使用する校舎は明記してあるが、統合の仕方については明記していない。

委員：違いが分からないため、説明してほしい。

事務局：吸収統合であれば、吸収する側の制服や、校歌、校章を使ってもらおう。対等統合であれば、相談した上で決めることになる。

会長：誤解があったかもしれないが、統合する側、統合される側という表現は、校舎を使う学校が決まっているため、便宜上使わせてもらった。

委員：富山市でも同様に再編の議論が進められているようである。学校から3km程度の地域の子どもの保護者の意見で「往復6kmを歩いて通わせるのか」というものがあつた。保護者が一番に心配するのは、どうやって通学するかだと思う。どのように通学環境を整えるかが大きな課題になると感じる。

委員：学校ごとに教育方針やPTAのルール等が異なるため、統合する側、統合される側で話し合うのはかなり難しいと思う。統合の仕方についても、ある程度市が意見聴取をして、見通しを立てるべきだと考える。

市P連にも統合に関する意見が届いていると聞くが、西山地区の統合については反対が多い。理由は、西山地区の子どもが瑞穂中学校に通うことになった場合、原子力発電所があるため、万が一避難することになった場合には保護者と子どもが別々の方向に避難することになってしまう。柏崎市には原子力発電所があることや避難計画等を考慮しながら検討を進めるべきだと考える。審議会にも避難計画を提示し、説明した上で進めてもらいたい。

事務局：次回、避難計画を用意する。

委員：西山地域の保護者と子どもが離れ離れになるという話があつたが、保護者の勤務先や時間帯によって異なる部分があるため、一概には言えない。

委員：避難計画そのものが様々な条件や季節、時間等によって変わるものであり、完成されたものではない。確かに避難計画を考慮することは大切なことだが、大変なことであることは共有しておきたい。

事務局：追加説明だが、統合の仕方が決まった後、推進協議会のようなものを立ち上げ、学校、PTAの中に入れてもらい、円滑な統合が進むように支援していく計画である。

委員：それは統合が決まった後のことか。

事務局：決定前には不要な機関であるため、統合が決まってから協議会を立ち上げる予定である。

- 委員： 小規模校、大規模校のメリットを考えた上で子どもたちの成長を考慮して大規模校を優先したいという話があったが、やはりなぜ小規模校のメリットが潰されなくてはならないのか疑問が残る。
- また、高柳町は高柳を基盤にして子育てをしたいと思ってUターン、Iターンした人もいるし、地域おこし協力隊等、高柳での生活を望んでいる人がいる。その中で大きな学校に統合されてしまうと、高柳に住めなくなるのではないか。学校の近くに引っ越さなければいけないのか。と切なく感じていると聞く。
- 大規模校では多くの子どもたちと切磋琢磨できたり、人数がいる中でスポーツができたりするが、その反面、統合によって子どもたちは精神的に辛い思いをしている。学校になかなかいけなくなってしまいうも増えてきていると聞く。必ずしも学力だけでなく、子どもたちの思いを一番に考え、様々な背景があることから、いろんな視点を持って進めていってもらいたい。
- 事務局： 我々も小規模のメリット、大規模のメリットの両方は承知している。委員にも両方の視点を持ってもらい、規模が大きい方が良いという考えも踏まえて検討を進めてもらいたい。
- この方針を無理やり押し通すという考えではない。皆さまから幅広い視点で意見をもらいながら進めていきたいと考えている。
- 事務局： 教育委員会としては、子どもたちに小さいうちからある程度の人数の中で社会性や協調性を身に付けてもらいたいと考えている。高校生や社会人になってから、いきなり大きな集団に属するよりも、小学生、中学生のうちからそういった環境の中で育った方が、社会人になったときにつまづくことが少なくなるのではないかと考えている。
- 委員： 統合を進めているのが予算の問題からでないとするれば、大きい学校、小さい学校を両方とも残し、子どもが通いたい学校へ通えば良いと思うが、なぜ統合しなければならないのか。
- 事務局： 教育委員会としては、ある程度の規模を確保し、子どもたちの環境を整えたいと考えているため、方針を策定する段階でそのような考えは持ち合わせていなかった。例えば審議会の中で、そうした方が良いという答申が出れば、それを踏まえて市として検討させてもらうこととなる。
- 委員： 統合前後のコスト面での比較はしているのか。
- 事務局： 使わなくなった校舎をどうするのかということと同様に、統合が決まっていないうちで算出はしていない。
- 委員： 算出してもらうことは可能か。
- 事務局： 算出は難しいと考えているが、現在の方針案で、すごく大まかな数字であれば算出は可能だと思う。
- 委員： 統合するとどれだけ予算が抑えられ、その分を学校施設や子どもたちの教育に充てられるのであればメリットとして示すことができると思う。現在の資料では、ただ大きい方が良いという考えしか読み取れないため、統合のメリットが分かる資料があると良いと思う。
- 事務局： 内容を精査し、提示したい。
- 委員： 今の意見に対し、学校が統廃合して数が減る前提ではなく、例えばプールを持つか持たないかでどの程度費用が変わってくるのかなど、現在学校を1校維持するのにかかっている費用を資料として用意してもらった方が良いのではないか。
- 委員： 最近、GIGAスクール構想や教育DXが国から発表されているため、そちらに絡んだアピールがあると、将来性、明るい未来のための統合だと思えるが、単純に人数が減ったから統合するのでは将来性がないように思ってしまう。将来に向けて教育環境をもっと良くしていくために統合して、設備や環境の充実を図りたいという思い、将来像が描けるものがあれば良いのではないか。
- 事務局： 次回以降、そういった前向きな資料を用意したい。
- 会長： 今の意見は、統合が数や規模の問題として語られているため、それ以外の

- メリットを示してもらいたいということだと思う。事務局としては、統合が決まっていないのに統合後のシミュレーションはしづらいということだと思うが、できる範囲で示せるものがあれば示してもらいたい。
- 委員： 現実の学校ではなく、10人の学校と100人の学校ではかかる経費がどれくらい違うのかだけでも良いと思う。現実には各学校へかかっている経費が目に見えてしまうと問題が生じるのではないか。
- 委員： 柏崎の学校ではなく、一般論でということか。一般論だと意味がないように思う。
- 委員： 各学校の経費が目に見えてしまうと、逆に他の学校から、こんなに経費がかかっているのかと思われてしまうのではないか。
- 委員： 市長との懇談会や議会の地域懇談会等で、西山地域は経費がかかっていると市長がよく言っているのを耳にする。審議会のみで使用する非公開資料として、現実的な数字を提供してもらった方が具体的に、より現実味を持った想定ができると思う。例えば、統合することにより教職員数がどれだけ増えるか、プールを共同で使うことにより、どれだけ経費削減になるか等可能な範囲で結構なので示してもらいたい。
- 委員： 過疎地以外の住民からすると、現実の経費を見ることで、それだけ経費がかかっているなら統合すべきだという考えに偏ってしまう危険性がある。資料の出し方によっては誤解を招く可能性があるため、慎重に考えるべきである。
- 事務局： 出せる資料について検討させてもらう。あくまでも意見だが、大きい学校と小さい学校とで1人にかかる経費は大して変わらないと思う。ただ、給食の材料にしても、大きい学校だと大玉単位で安く買うことができるが、小さい学校だと大玉はいらぬが、単価を考えると大玉を買わざるを得ないという問題がある。
- 教育委員会としては、学校の人数が増えることにより教職員の支援体制が強化され、子どもたちにとってのメリット、統合の良さにつながると考えている。確かに規模が小さい方が一人ひとりに目が届くということはあるが、数が増えることで複数の先生が子どもたちを見ることができ、チームティーチングをすることができることを方針では目指している。
- 委員： 小規模校と大規模校とで1人にかかる経費が変わらないというのは誤りだと思う。校舎の維持、補修等でも小規模校の方が、経費がかかるのは容易に想像できる。
- 事務局： 訂正させてもらう。
- 委員： 次回以降で結構なので、規模以外で再編方針を補足する資料を用意してもらいたい。
- 事務局： 児童生徒数によって明確に教員数も変わってくるため、その基準についても提示する。
- 委員： 教員の経費は、市は関係ないはずである。国からの予算は一般財源として入ってきており、市が運用しているため、統廃合によって市の予算がどれだけ動くのかを説明してもらいたい。
- また、統合した学校の教職員が、全員統合先の学校へ異動するわけではないため、一概に教職員数が充実するとは言いきれないと思う。教職員数がどれだけ増減するのも示した方が良く考える。
- 教育の中では郷土愛や文化愛を育てることになっているが、吸収統合があると、統合先の地域の学習はするが、吸収された地域のことは疎かになってしまう。そうなった際の対策も答えられるようにしておくべきである。
- 学力の面では、小規模校と大規模校とで大きく差は生まれない。個人指導をするにはかえって小規模校の方が有利である。ただ、点数で評価されない集団行動に関しては統合した方が良いかもしれない。
- 統合の仕方が決まっていないという話であったが、統合の仕方が決まった後、PTAで校歌や校章等のことを考えると到底2年では終わらないと思う。保護者の意見だけでなく、地域の伝統等も関わってくることであ

- り、話し合いが難航することが予想されるため、教育委員会で、統合の方法や校歌等の方針は決めるべきである。
- 委員： 統合の仕方についても学区等審議会で審議することになるのか。
- 事務局： 統合の仕方については、学区等審議会で審議すべき事項ではない。学区等審議会は教育委員会が策定した再編方針に対して答申をいただくところまでである。
- 委員： 小規模校の子どもたちはなるべく早く大きなコミュニティに属した方が良いという説明があったが、それは何かデータに基づいているのか。
- 事務局： 明確なデータに基づいて説明をしたわけではないが、成長してからのつまずきよりも、子どものうちの方がダメージは少ないのではないかと考えている。
- 委員： つまずきが早い方が良いということであれば、つまずいたときにフォローできる体制がなければ、子どもたちが大きな試練に潰されてしまうだけだと思う。大規模の環境に入ったときの人間関係のトラブルをカウンセリング等でフォローできる体制を築くべきである。
- 事務局： 子どもが小さいうちは支えてくれる大人が周りに多いため、そういった面では成長した後のつまずきよりも影響が少ないのではないかという思いから説明である。
- 委員： 子育ては親との関わりだけでなく、地域との関わりも大事だと思っている。また、学校や保育園で先生がどれだけ自分の方を見てくれたかということも大事になってくると思う。少人数の学級と大人数の学級では先生の目の行き届く範囲も違うので、つまずきから成長させるということであれば、小規模に重点を置くべきではないか。今の世の中の教育論として、どちらかといえば小規模の環境で先生や地域が協力しながら子どもたちを育てていこうとしていると思う。
- 事務局： 国でもコミュニティスクール構想といった動きがあり、学校の子どもたちを教職員と地域とで育てていこうとしているため、ご指摘のとおりである。
- 委員： 統合した学校の子どもが精神的なストレスで通院したことがあると聞くため、子どもをサポートする体制を学校と地域と一緒に考えていかなければならないと感じている。
- 委員： 市長の教育大綱に、柏崎市はアナログに力を入れていくと書いてあったが、方針とは真逆だと感じてしまう。市長は統廃合に関してどう考えているのか。
- 事務局： 方針を策定するに当たり、市長と意見を重ねているため、基本的に市長もこの方針と同じ考えを持っている。
- 委員： アナログに力を入れていった結果が統廃合を進めることにつながっているということか。
- 事務局： 市長のアナログの充実という考えは変わっていないと思う。学校の中でGIGAスクール構想といったものも広まっている。機械化のメリットも合わせながら、人と人とのつながりといった対人間同士のものも充実させていくというのが市長の考え方だと思っている。
- 委員： 前回要望があった市議会議員との意見交換はどうなったのか。
- 会長： 市議会議員との意見交換について、現段階では、事務局から意見交換の場を設けるのは難しいのではないかとされている。その理由として、事前審査に当たるのではないかという問題、議員から様々な意見が出てきた際に審議会が混乱するのではないかという懸念が挙げられた。
- 意見交換について事前審査には当たらないと思うし、審議会が混乱することまで事務局は心配しないで良いと考えているため、もう一度検討するようお願いしてある。意見交換の仕方についても、議員全員と話をするのはなく、例えば文教厚生委員会の議員の方と審議会委員の何名かで話をするというやり方を考えている。主旨は市議会議員がどのように考えているかを聞くことである。
- 事務局： 再編方針に対しては、様々な見方、意見があり、賛成、反対両方の人がい

と思う。いろいろな意見を聴きながら議論を進めていくために、できれば委員全員から一言ずつ意見を聞かせてもらいたい。

会 長 : 次回、審議に入る前に全委員から一言ずつ意見を聞かせてもらいたい。

【その他】

事務局 : 次回の審議会は、5月26日（木曜日）午後6時30分から行う。

以上、相違ないことを確認する。

令和4年（2022年）5月26日

会 長 阿 部 義 章

副会長 徳 永 優 子